

令和4年度第1回社会教育委員会議日本民家園専門部会 議事録

1 開催日時 令和4年5月21日(土) 14:00～16:00

2 開催場所 日本民家園 旧原家住宅2階

3 出席者 委員 高橋部会長、大野副部会長、野尻委員、菅野委員、  
原田委員、長谷川委員、柴田委員、入江委員、松本委員  
事務局 澁谷園長、東担当係長、葉山担当係長、真保職員

4 議題

- (1) 博物館の事業評価について
- (2) 令和4年度日本民家園事業評価シートについて

5 傍聴者 0名

6 会議内容

1) 園長挨拶

2) 会議成立の確認、資料の確認

3) 報告事項

- (1) 令和3年度統計確定値について
- (2) プロジェクションマッピングの入場者数について
- (3) 指定管理者の公募について

4) 部会長・副部会長の選出

東担当係長：議事に先立ち、専門部会長・副部会長を委員の皆様の互選で選んでいただく。部会長に高橋委員、副部会長に大野委員という案があるが、皆様いかがか。

(全員拍手)

東担当係長：全員に賛成していただいたので、高橋委員を部会長に、大野委員を副部会長に選任する。  
次に議事に入るので、高橋部会長に議事進行をお願いします。

高橋部会長：それでは議事に入る。議題(1)について、事務局から説明をお願いします。

5) 議事

園長：本日の議題は2件、博物館の事業評価についてと令和4年度の事業計画についてである。  
今回から参加される新任の委員もいることから、まず(1)の博物館事業評価に関し、事務局から説明を行う。

<資料1:日本民家園協議会における評価の実施について>

<資料1を事務局より説明>

高橋 部 会 長：続いて次の議題「令和4年度日本民家園事業評価シートについて」に移る。

<資料2：令和4年度 川崎市立日本民家園事業計画・評価シート>

[令和4年度目標値及び令和3年度実績値について]

<資料2の1ページを事務局より説明>

野 尻 委 員：外国人入園者数はどうやって識別される？

東 担 当 係 長：外見と、話されている言語で判断している。厳密ではない面もある。

高橋 部 会 長：学校来園数は小学校の数か？

東 担 当 係 長：幼稚園から高校まで含めての数字である。

高橋 部 会 長：川崎市内の小学校はどのくらい来ているのか。

園 長：来園する学校はほとんどが小学校で、市内の学校はその中の8割ほどである。残りの2割は横浜市や相模原市、世田谷区などの学校である。

大野副部会長：令和4年度総入園者数目標値は13万8000人と高く、達成はかなり厳しい。目標の達成度は予算要求に影響するのか。あまり無理ない目標にしたほうが相対的に達成度は高くなるが、その辺はどう考えているか。

園 長：川崎市の総合計画の中で定められている目標数値が13万8000人である。これは、50周年のときにまとまった予算を要求した際に、根拠として出した入園者数予想がひきつがれているためであり、この数字は修正することができない。

コロナ禍のなかで最大限イベント等を行うことで集客をはかっているが、厳しいのが正直なところである。予算要求に直接影響するのは入園者数ではなく入園料収入である。

大野副部会長：博物館法第9条には、外部評価の結果に基づき、運営の改善を図るとあるが、数値の達成度のほかに、来園者満足度アンケート結果も今後教えてほしい。

園 長：総合計画の下位計画「かわさき教育プラン」では、来園者の満足度と入園者数が指標になっている。コロナ禍で紙のアンケートは取りづらい状態が続いているが、指定管理者がQRコードを用いたスマホアンケートの仕組みを考えている。

柴 田 委 員：外国人入園者数の目標数値2000人は少なく感じる。炉端の会の活動の際にどこから来られた方が聞いているが、これまでは国内在住者が多かった。コロナ前の令和元年度には約6800人来園していたことから考えても、入国制限が緩和されれば、もう少しいらっしゃるのではないかと。

園 長：入国制限が緩和されたとしても、外国人観光客が最初に訪れる先はおそらく富士山などのメジャーな場所になると思われる。民家園の来園者が増えるのは少し先だろうが、受け入れ態勢は整備していきたい。

[1保存・研究・展示・普及活動]

(1) 文化財の保存・調査研究の推進

<資料2の2ページを事務局より説明>

大野副部長：民家園には25棟もの文化財建造物があり、その修繕や維持管理を把握するには、各年の修理予定表を出してほしい。私は昨年度部会の園内視察の回を欠席したため今日始めて見たが、広瀬家前の園路舗装の様子に驚いた。綺麗にはなったが、公園の中にぽつんと古民家があるようで違和感がある。民家園らしい景観を考えた園路整備になるよう、よく検証した方がよい。バリアフリーや泥はね防止のため、園路はある程度固める必要があるが、失われていく雰囲気もある。全部を舗装するのではなく、雨のとき人が通れるよう高いところだけ残すなどの工夫が必要だ。また、井岡家は町屋なのだから、民具制作技術保存会(以下民技会)の竹グループと相談して、ワークショップなどで犬矢来(いぬやらい)を作って置くといいのではないか。完全に雨をシャットアウトするのではなく、うまく受け流しつつ、雰囲気を保ってほしい。

野尻委員：資料2の2ページ目に伊藤家新収蔵資料の整理とあるが、最近になって資料の寄贈がされたのか。

園長：伊藤家で倉を解体することになり、中に収まっていた生活用具を寄贈していただいた。

高橋部長：資料の収納場所は大丈夫なのか。

園長：現在、園内の伊藤家の中にある資料は他の家のものなので、それらを伊藤家の資料に入れ替えていく作業を行う予定である。

菅野委員：中期目標に本館地下収蔵庫の燻蒸実施とあるが、今まで燻蒸をしたことはあるのか。

園長：何度か実施したことはあるが、予算をとるのが難しい。

菅野委員：大岡實博士のフィルムや図面などの貴重な資料が収蔵されている。材質的に燻蒸のガスに触れないほうが良いものもあると思うので、よく考えて実施していただきたい。

野尻委員：古民家の耐震工事は耐震診断、補強設計、工事を1サイクルととらえているのか。

葉山担当係長：所有者診断を行った結果、ほとんどすべての建物について耐震診断が必要だとわかったので診断・設計・工事を順番に行っている。

松本委員：数値での事業評価は比較的やりやすいが、工事の進捗などは評価が難しいのではないのか。具体的な数値ではなく、委員全員の合意で決めているのか。

園長：そのとおりである。

(2) 展示の充実

<資料2の3ページを事務局より説明>

高橋部長：QRコードによるWeb版音声ガイドサービスや音声ガイドアプリをインストールしたタブレット端末の団体貸出サービス開始が令和4年度の計画としてあるが、これらは既に始めているのか。

園長：始めている。

高橋部会長：実際に活用されているのか。

園長：団体へのタブレット端末貸し出しが1件あったが、途中から炉端の会がガイドして下さったこともあり、どのくらい利用したかまでは確認できていない。

高橋部会長：この件について炉端の会はいかがか。

柴田委員：現時点で炉端の会としての団体向けガイドは再開していないが、任意でのガイドは行っており、タブレットなどの機器と併用してもらったらよいと思う。拡声器を使用すればマスク着用時のしゃべりづらさも改善すると思う。

菅野委員：展示に使用する植物種整備とあるが、蚕に使用する桑もあっていいのではないか。

園長：桑は放っておいても伸びてくるが、小正月に使うニワトコは大きく育てるのが難しく、その枯渇が長年の課題となっている。

菅野委員：植物は民家のニワなどで栽培するのか。それとも、管理スペースで栽培するのか。

園長：管理スペースで苗を大きくしてから植え込むが、いつのまにか消えたりして、大きくなるまで時間がかかる。

柴田委員：展示に使用するのはニワトコでないとだめなのか。

園長：小正月の再現展示を行う北村家のあった神奈川県秦野市周辺ではニワトコを使っていたため、その再現を行いたい。ニワトコは本来身近な植物だが、この辺では手に入りづらい。

菅野委員：世田谷の次太夫堀公園民家園は市民も植物栽培を担当しているが、そうしたやり方もあるのではないか。畑で作られていた作物を育てるなどの修景も含めてできるとよい。

大野副部会長：先週、大阪の日本民家集落博物館を見てきたが、財政が厳しい中様々な工夫が見られた。合掌造りの2階に上がる体験ができ、園内アナウンスや案内板で告知して、初めての来園者にもわかりやすくしていた。高倉の屋根を野趣あふれる感じで葺いて、現地を再現しているのもよいと思ったが、残念ながら葺き方の理由についての説明はなかった。ちょっとしたインフォメーションやガイドの一言があると印象が変わるし、今あるものを生かせると思う。日本民家園でも昔話講演等でアナウンスの取り組みをしているのをぜひ続けてほしい。また、三澤家にある石置き板葺き屋根の構造模型に解説をつけたり、工事のときにしか見られない様子を園内アナウンスして見てもらったりなどすると、印象が強くなるし、満足度も上がると思うので、ぜひやってほしい。

高橋部会長：工事の見学やガイドは、エンターテインメントとして興味深いため、ぜひ行っていただきたい。

### (3) 教育普及活動の充実

<資料2の4～5ページを事務局より説明>

菅野委員：毎年秋に行われている伝統芸能の歌舞伎公演は、今年度は実施するのか。

園長：人形浄瑠璃公演についてのみ予算要求しているため歌舞伎公演は行わない。公演の謝礼金は、コロナで公演中止になった場合、他に流用することができず、影響が大きいので、一公演のみとした。職員体制としても、秋に2本の伝統芸能公演を行うのは厳しい。目標としては毎年1本ずつ伝統芸能公演を行い、その他に、文化財公開を特別な形で実施するこ

とで対応をしていきたい。

高橋部会長：博物館実習について、一年に何回、何人受入れているのか。

園長：今年度は秋の1回のみで、人形浄瑠璃公演から民家園まつりの期間、7人受け入れる。

高橋部会長：民家園では実習料を徴収しているのか。

園長：要綱にもとづき1人あたり5000円を徴収している。

柴田委員：人形浄瑠璃公演は船越の舞台で行うのか。

園長：例年通り工藤家で行う。

柴田委員：旧所在地交流事業の南砺市とのイベントは今年度の予定は決まっているか。

園長：南砺市観光協会中心に行っているため、先方に実施しませんかというお声がけはしている。ただし、イベントで実演されるお囃子の方々が高齢のため、今年度実施できるかは、今後の感染状況を見ないとわからない。なお、実施する場合は、10月の多摩区民祭にあわせる形となる。

菅野委員：伝統工芸館の中期目標の項をはじめ数か所に「指定管理者変更になった場合の円滑な移行」とあるが、每期管理者が変わると、園の安定的運営にも支障が出かねず、博物館に指定管理者制度を導入することへの疑問の声が上がりかねない。

園長：次期指定管理者がどうなるかはわからないが、応募する民間企業にとってメリットを感じられるように仕様書を作成していく。

高橋部会長：園から指定管理者制度の見直しをアピールすることはないのか。他の自治体では、指定管理者制度の見直しが出てきており、随意契約にしたり、5年ではなく、10年や30年などの期間で契約にしたりという事例も聞いている。川崎市はどうなっているのか。

園長：川崎市ではそうした議論にまではいっておらず、学芸部門と統括業務は市直営、運営管理は指定管理という形でやっていくことについてコンセンサスがとれている。

高橋部会長：せっかく定着してきたサービスが、5年で切れてしまうと、どうしても最後の1年間は発展性がなくなってしまう。そのため、利用者サービスにとってはよくないという点はアピールしていてもいいと思われる。

大野副部会長：学校連携の充実について、小学生だけでなく、中学生も何か民家園を体験できると望ましいが、中学校は部活動もあり忙しいとは思いますが、職業体験以外にも何かできそうなことはないか、校長先生のご意見を伺いたい。

原田委員：小学校の流動的な時間割と異なり、中学校はかなり時間に制約があって近隣の学校でないと来園は難しい。平中学校では昨年度来園してSDGsに絡めて勉強をすることができたが、これは立地的に学校と民家園が近いからである。職場体験は学年全体で同じ日に行うが、コロナ禍で受け入れ先が少なく実施できる学校はまだ少ない。昨年度民家園で作られた小学生向けの事前学習動画などを使い、小中学生が一人一台もっているギガ端末をうまく利用して、総合の学習の中で来園せずに勉強をしていくことはできると考えている。

園長：昨年度は、はるひ野中学校に出前授業で行った。そういった形も可能である。

長谷川委員：昔話公演について、囲炉裏の近くで話が聞くことができるのが非常に印象的だが、開催回数が年に30回から25回に減っている。これはなぜなのか。

園長：コロナで中止になった回があるためである。なるべく従来通り再開したいが、現在のところ

る開催方法も感染リスクを減らす方式をとっている。

大野副部長：炉端の会や民技会の活動もぜひつづけてほしい。はた織りの活動は原家以外でもしているのか。

入江委員：原家以外でも随時織っており、お客様は喜んで下さるのでもっとしていけたらいいとは思う。炉端の会が活動再開したら、さびしかった園の様子がすごくかわった。復活が待ち望まれていたので、ありがたい。

柴田委員：この2年間有志の活動として動いたことはあったが、本格活動は行っていない。3月末の時点で園に名簿を作ってもらったところ、会員が220人とのことであり、この2年で30人減少した。高齢が大きな要因である。来園者へのサービス向上として、1日につき最低2棟は火を焚きたいが、会員人数が確保できないと活動はできない。従来行っていた年一回のボランティア入門講座を再開するとともに随時入会もぜひできるようにしてほしい。会員人数の減少にいくらか歯止めをかけられると思う。

## [2 運営・管理活動]

### (1) 博物館経営の強化

<資料2の6ページを事務局より説明>

高橋部長：民家園の運営基本方針は、文化財保存活用地域計画と一緒に文化財課からまとめて出されるものか。

園長：文化財保存活用地域計画の下位計画に位置づけられるが、それぞれ独立したものである。

長谷川委員：多摩区の観光冊子で民家園が紹介されているのをよく見る。広報では、YouTubeの活用も、今後さらに進めてほしい。

園長：民家園ではYouTubeのほかにツイッターでも発信している。ぜひご意見を今後も伺いたい。

### (2) 利用者の利便性・安全性の向上

<資料2の7ページを事務局より説明>

大野副部長：法隆寺金堂では倉庫に入れている古材が国宝の附（ついたり）指定となった。国の重要文化財である民家園太田家の焼損部材も附指定を申請したらよいのではないか。文化庁と相談していこうと思う。

高橋部長：昨年度の専門部会で、防災訓練を来園者と一緒に行ったり、消防設備のデモンストレーションをしたらよいのではないかという話があったがどうなっているのか。

園長：よく五箇山の映像で放水銃を一斉放水する様子がニュースで放映される。あそこまでのものをするのはなかなか難しいが、防災のあり方も来園者にアピールするポイントになるとは思っている。来園者に見せる工夫をできたらよいと思う。

葉山担当係長：放水訓練は、太田家や清宮家で修理前に行ったが、屋根を葺き替える寸前だったからできた。そうでなければ水びたしになり養生が大変になる。なお、太田家で行った際は取材も

あった。ただ、訓練自体は短時間のため、長時間楽しんでもらうことにはつながりにくい。

高橋 部会長：動画を撮影し、ツイッターなどで公開してもいいと思う。

入江 委員：古民家の清掃について、以前に比べ行き届いていないように思える。炉端の会の活動が休止していたからだと思う。ほこりがたまと古ぼけた雰囲気を感じてしまうため、清掃に行き届かせてほしい。また、古民家の大きな補修についてはよくわかったが、細かいところ、例えば江向家の屋根を結んでいる縄などが緩んだり切れたりしているが、こういった補修はどうするのか。

園 長：掃除について、炉端の会の活動が休止していた時期は荒れた雰囲気があった。職員による見回りも行ったが、改めて炉端の会の皆様の力の大きさを認識した。今後は清掃を徹底していきたい。

葉山担当係長：民家の補修については、目につく傷んだ箇所は江向家を含めたくさんあるが、緊急性を考慮し、優先順位の高いものから修理している。修理候補場所のリスト化にはボランティアはじめ園内で活動する方々による情報が非常にありがたい。引き続き情報をいただきたい。

野尻 委員：江向家の屋根に穴が開いているが修理予定はあるのか。

葉山担当係長：江向家の屋根は傷んでいるのはわかっているが、文化庁の方針変更により、屋根の修理は耐震補強とセットで行わないと補助金が下りなくなったため、まず耐震診断を行った。屋根の本格な修理はまだできないため、穴が開いているところは部分的な差茅で対処した。合掌造りは差茅をしてもすぐに他のところに穴が開いてしまい、長持ちしないため、差茅をくりかえしている状況である。現在予定している作田家の工事が終わり次第、江向家について優先的に耐震補強設計を行い、耐震補強工事とセットで屋根葺き替えを行いたい。

高橋 部会長：以上で、本日の議事は終了する。

#### 5) 今後の予定

- ・第2回～第4回専門部会の開催内容について

以上について事務局より連絡。

<16:00 議事終了、閉会>